

# 柏樹

題字  
南 勇 会長  
川口市退職校長会  
会報 第19号  
令和元年7月1日

## 楽しさ

金子富士夫



放課後の留守  
家庭教室で、サ  
ポーターのA氏  
より子ども達  
が、何の事でも

「楽しかった」の一言で済ませている。だが、「本当の気持ちからなのではないか」と聞いてきた。A氏は、本当とは違うようだが説明できないと、言っている。私は「本当の」意味・使い方のことを確認してから、日体大の集団行動を例示した。

学生達100名程の大集団が全員一丸となり、同一速歩、同一リズムで前後左右、斜め左右、バック行進も含めて、一体化した見事な隊形を展開、一人が間違っても、組織体の集団美は不成功となり、何度でもやり直す真剣な集団行動で、失敗は許されない緊張の連続。学生達は一心に集中して挑戦、やり抜く気迫の勢い。完遂への根性が全員に徹している。

演技後の学生達は、成果と達成感の

喜びで涙を流していた。集中と苦勞と喜びで生涯に残る感動を体得し

ていた「本当の楽しさ」とは、苦勞の結果、内面からこみ上げた「嬉しさと感動」の事と説明した。A氏は納得された。

二例目は、私自身の撮影体験から。シャッタースピードS値を変えて、水が止まる姿を試みた。滝の落水、噴水の飛散を止めた姿は、水が踊っている。よじれた紐、飛び上がったままの空中停止の水粒、垂れ下がった小枝型だったり、まるで阿波おどりの姿のよう。これは速い写し方による映りで、空中での水の停止状態が見えて、私の気持ちを引きつけた。結果的には、フィルムの感度値+照度+S値の一致による映りで、何度も失敗を繰り返しながら、望む姿になるまで挑戦。成功したときの喜びは格別で、生涯に残った。

「苦勞による喜び・感動は、集団行動と共通」とA氏へ説明し納得された。自分としては、苦勞して掴んだ大きな喜び嬉しさが増幅されて、「本当の感動・楽しさ」へ変容していくものと思っている。この感動は、「自力で為し得た本当の嬉しき・楽しきの基」として、今も心に残している。

教室の各氏は、子ども達の喜びを基にして、進取性や気力への意欲が必要と共有し合った。その後、子達への取り組みが以前より積極的な意識で、明るく対応するようになった感じがする。視野の広がりや認識の新鮮さで、居心地のよい場所になりつつある。

## トキメキ

原田 明



「大人になるとあつという間に1年が過ぎるのはなぜ？」問いかけに正答

できないと、「ポーっと生きてんじやねーよ」と叱られる。この時の正解は「トキメキがなくなったから」であった。(チコちゃんに叱られる！平成30年7月20日NHK総合放送)

この放映を見てなるほどと思い、トキメキと喜びの観点から一年間くらいを振り返ってみた。

①この放送の少し前にサッカーワールドカップロシア大会があり、日本代表がベルギー(世界ランキング3位)に勝ってしまうかもしれないときめいたが、ラスト14秒で超高速カウンターを受けて逆転負けした。でも、よくここまで成長してきたなど感無量。

②冬の朝、ラジオ体操をしている時に見る雲の色。ピンク色に染まり、刻々と変化していく。

③畑で育てた作物を孫と収穫する時。初めて獲れたスイカに包丁を入れた時のワクワク。

④オーバー60サッカーでグラウンドに立てる喜び(最年長は82歳)。身体の準備と回復・ケアに時間を要するようになってきているが。

⑤ストレッチを行っていて、以前よりは少し柔らかくなったかなと感じた時。

⑥公民館勤務をされていて、来館者と挨拶を交わし、気持ちよく今日行く所が提供できているなど思える時。講座等を企画し、参加者が喜んでくれた時。健康づくり運動(ストレッチ、ウォーキング、ヨガ、パドル体操、百歳体操等)、古典文学、歴史講座、料理等を受講生と共に学んでいる。見沼の野鳥観察会でカワセミが観られ、飛ぶ宝石と称される光る青の美しさに感激。中学生の職場体験、小学生の地域学習や夏休み講座で児童生徒とふれあいの時。子育て講座で親子が有意義な時間を過ごせたなど感じた時など。

日々の生活の中でトキメキ・喜びを見つけ、W杯で日本がベスト8になれる日を夢見て、「ときめいて」応援していきたい。



# 柏樹会総会

## 祝賀会・懇親会



令和元年5月12日(日)、川口市退職校長会定期総会が、青木会館で開催されました。当日は、南男会長のあいさつに続き、茂呂修平教育長、栗原喜一郎顧問、杉田 明市立校長会長の祝辞をいただきました。

議事に入り、事業報告及び計画、決算及本年度予算が承認されました。その後、祝賀会・懇親会が開催され、祝賀ムードと併せて、今年度の川口市退職校長会の活動方針も決まり、和やかな雰囲気の中で、盛会裏のうちに閉会となりました。今年度は12名の新入会員を迎え、会員は241名となりました。



金子富士夫先生



池照 正一先生



坂本 義明先生



原田 四郎先生



内田 真先生



鈴木 裕先生



高木くみ子先生

米寿並びに瑞寶双光章  
おめでとーございます

上段右：会長挨拶  
上段左：教育長挨拶  
下段右：懇親会  
下段左：新入会員挨拶

### ちよつといい話

忘れえぬ生徒たち

山本 哲雄

現役を退き早十年が過ぎた。過ぎた日々を振り返るのは好きではないが、私には忘れられない大勢の人々がいる。特に教員生活には生徒、同僚、先輩、上司とかかわりが大きい。当時は生徒や柔道部員たちは自分が育てたと思っていたが、振り返ると育ててもらっていたのは私の方かもしれない。

昨年教え子たちが古希の祝いをしてくれた。その生徒たちも50歳を迎え、話し方も落ちて中学生に戻ったかのように話に花が咲いた。とても楽しい同窓会で次回を約束し閉会となった。その中で出た話である。私は学級担任時代、学級や学習指導はもちろんだが特に学校行事には力を入れていた。中でも合唱コンクールにはたくさん思い出がある。合唱は最初バラバラでもパート練習を繰り返して、全員が心をついて丁寧に合わせて必ず聴く人の心を打つ。それはワインが熟成していく過程に似ている」と私は生徒に練

り返し話した。練習は土日にも行った。ある生徒は「先生の選曲は難しいものが多かったが私たちは一生懸命練習した。『お母さん』という曲で2年生でありながらグランプリを獲得できたのは忘れられない思い出です。宝物といってもいいくらい」と話してくれた。

別の生徒は「先生の一生懸命さに引きずられ練習したが、いい練習ができた時の先生の顔を見るのが嬉しくて、私たちもがんばった。グランプリを取って先生を喜ばせたかったただががんばった」と話してくれた。この話を聞いた時に私は思った。やっぱり生徒たちの方が上手(うわて)だったのだ。

私は現在、川口市民音楽協会の理事長を務めさせていただいている。この3月21日に今年度の主催事業として東京芸術大学学長でヴァイオリニストの澤和樹先生と関係者を招きリリア音楽ホールでコンサートを開催した。その折りにその生徒たちや当時の保護者の方々が揃って来場してくれて盛況なコンサートになるよう力を貸してくれた。当時を思い出しとても嬉しい一日となった。

これが私の最近の「ちよつといい話」ではなく、「大変嬉しい」話である。



### ♪常にチャレンジジャーでいたい♪

大沢 春樹

仲間といつものようにカラオケで歌っていて気付いたことに、最近、高音部の声が以前より出ない、出しづらいついていました。年齢のせいかなと思ひ、機会があればボイストレーニングができればと考えていました。そんなある日、近所の公共施設へ出かけ、情報掲示板に目をやると、新たに合唱団を組織し団員を募集しているとの知らせがありました。

新たに発足する合唱団なら練習しやすいだろうと考へ、発足会に参加することにしました。会合で指導者の先生を中心にして、9人の団員で発足することになり、テノールとしての練習に励むことになりました。

練習日には、合唱仲間と楽しく歌ひ発表会に向け先生の厳しい指導の下、譜面とにらめっこです。これが私にとつての新たなチャレンジの始まりとなりました。

その後、団員も増え、合唱団の練習が2年程経った頃、先生の方針として、独唱曲を練習してベルカント唱法を身につけさせる個人レッスンの計画が示されました。私は不安だらけでしたが、レッスンに参加することにしました。というのも、この頃より混声合唱での男性は主旋律を歌う機会が少なく、少

しストレスを感じていた頃でした。レッスンは、年間の練習曲として

「コンコーネ50番」を数曲と自由曲2曲を選曲し、4月にサロンコンサートを開き、全員が独唱で、譜面無しの暗譜で発表してもらおう、とのことでした。申し遅れましたが、指導の先生は、

現役オペラのソプラノ歌手でピアニストです。指導内容はレベルが高く厳しく、いつもそこまで求めるのかと思うような指導でついでいくのが大変でした。なんとか厳しい指導に耐え、今年で8年目を迎えます。合唱団は、3年で退団し、その後は、個人レッスンを中心として今に至っています。

ご存知かと思いますが、ベルカント唱法とは、イタリア語で「美しい歌」という意味でイタリアの伝統的な歌唱法です。ベルカントの呼吸法は、腹式呼吸です。体内で横隔膜が上下することで周囲の内臓器官に刺激を与え、インナーマッスルが鍛えられるとの付加価値があります。ベルカントは、咽に力を入れることなく、高音・低音に関わらず歌うことができるようにした歌唱法で、体の小さいイタリア人や日本人に適した歌唱法とのことでした。

昨年はオペラ「トスカ」から「星は光りぬ」小林秀雄「落葉松」、今年は、トステイ「理想」高田三郎「くちなし」に挑戦しています。これからも、発表会の緊張感と歓びを楽しみに、常に挑戦者でありたいと思っています。

## — 各部の活動 —

### ◇親睦旅行

地魚料理と

静寂の別世界鳴立つ庵

昨年度は、素通りすることの多い湘南大磯方面への旅を実施しました。

朝一番に訪れた旧吉田邸では、終戦直後の様々な資料や写真を目の当たりにして改めて戦後の我が国の出来事を身近に感じました。次に訪れた鳴立つ庵は国道を一步入っただけで静寂に包まれた別世界となり、高尚な文学の世界に浸ることができました。隣接する井上蒲鉾店では、名物の蒲鉾を購入。

昼食は地魚料理の店「快飛」で名物のシラスや地魚料理に舌鼓を打ち、大満足の一時を過ごしました。

茅ヶ崎の浄見寺では、墓地内の小高い場所にある「大岡越前の守」のお墓にお詣りしました。

美味しい海産物を味わい、戦後の我が国の進路を決めた吉田総理大臣の足跡をたどり、平安、鎌倉の文学の世界にも浸った有意義な旅となりました。



平成30年度柏樹会興行旅行 旧吉田邸にて 9月27日(木)

(和田悦男)

### ◇文学散歩

平成30年10月26日(金)は、天候にも恵まれ、23名の会員が集まりました。集合場所は、都電の鬼子母神駅でした。最初に訪れた鬼子母神堂は、安産・子育て(こやす)の神様をお祀りするお堂として、多くの人々に親しまれています。

次に訪れたのが、雑司ヶ谷霊園でした。ここには、明治の文豪である「ぼっちゃん」吾輩は猫であるで有名な夏目漱石の墓があり、とても立派なものでした。更に「アメリカ物語」などの代表作のある永井荷風の墓、日本人最初の女性医師、荻野吟子(埼玉県出身)の墓、芸能人では大川橋蔵、その他著名人の墓がありました。

次に訪れたのが、雑司ヶ谷旧宣教師館でした。ここは、明治40年にアメリカ人宣教師のマッケンレーが自らの住宅として建てたもので、当時の新興住宅地における布教活動と幼児教育の拠点になっていました。

最後に訪れたのが、護国寺でした。

ここは江戸幕府の5代将軍徳川綱吉の母でもある桂昌院の願いを受けて建てたものです。ここには、政治家、早稲田大学創立者の大隈重信や安田財閥を築いた実業家の安田善次郎の墓などがあります。ここを散策して和食「楽」で昼食をとり、親睦を深めて文学散歩を終えました。

(伊藤和幸)



### ◇新時代に期して

#### 「俳句の集い」

30年ほど続いた平成という元号の最後の4月に、「俳句の集い」の句集『柏葉』第26号を発行できました。

この句会は、昭和57年の創設ですから37年余の長きにわたってきた歴史を引き継いだという思いです。

「俳句の集い」の活動は、年に4回開かれる句会が中心です。一人4句ずつ出句された俳句を通して、自由に意見交換をし、よりよい句境を求めるのがねらいです。会員の一人一人が俳句の専門家ではありませんので当を得た意見ばかりではなく、そこにこそ、一人一人の俳句に託した心情が詠みこまれており、思いがけない発見をすることが多くあります。

俳句は難しいとよく耳にしますが、日常生活の中での出来事や季節の移ろいにふと気づいた心の動きを率直に「音に詠みこむ」ことで、心身の活性化にもつながります。

現在の小学校5年生の国語の教科書には、短歌・俳句のほかに中国の漢詩まで載せられています。全校児童(小学1年生まで)が俳句に取り組む実践を重ね、地域の俳句会の方々と一体となった活動も見られます。

新元号(令和元年)の時代を迎え、本会の新たな進展を期して。(関根要造)

### ◇健康教室クラブ

#### 料理とウォークで健康に

健康教室クラブでは、調理実習とウォーキングの行事を実施しました。

調理実習は、6月20日(水)に「簡単ヘルシー料理(第13回)」を青木公民館で5名の参加で行いました。講師は、埼玉県・川口市の食生活改善推進員協議会長の桜井道子氏にお願いし、毎回大変好評です。今年度は、生姜焼きカレー風味・豆腐サラダ等をつくりおいしくいただきました。また、『食事と健康について』有意義なお話を聴くことができました。

「ウォーキング、(第16回)」は、10月11日(木)に15名参加で好天の中、実施することができました。南浦和駅集合→新座駅→野火止用水縁→平林寺↓新座資料館→新座駅のコース約7kmを歩きました。台風接近等で2回中止になっていた平林寺ウォーキングが、3回目の挑戦で実現できたことに皆で満足感に浸りました。



完歩の後のビールは、格別うまかったです。今年度は、6月に調理実習、9月にウォーキング教室を計画しています。

(中村昌義)

### ◇楽しい柏樹会美術展

美術展を始めて早や13回目を終えました。この間、修正に修正を重ね柏樹会独特のユニークな美術展として発展して参りました。

今年度の出品数は77点、出品者44人でほぼ同じように推移しております。ただ作品の質が年々高くなり、素晴らしい作品が数多く見られるようになりました。

加えて各クラブや行事等の展示もなされ、思い出せばいつまった楽しい展示会となりました。なんらかの趣味に没頭することは、脳の活性化にも連なり、医学的にも大変よいといわれています。

それから新入会員の皆様、今日まで大変な重責を果たされ、ご苦労さまでした。ぜひとも美術展に出品され、各クラブで楽しめますことをご祈念申し上げます。



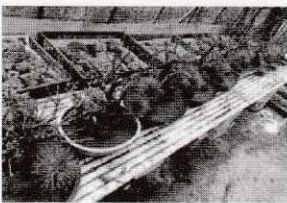
(小川吉之丞)

### ◇盆栽教室

盆栽教室の1回目は「樹里安」での鑑賞会が10月6日(土)でした。大作の盆栽は長い時間をかけて自然と共に作り上げられているようで、ただ感心するばかりです。

2回目は桐山隆夫宅での「松竹梅の寄せ植え」です。桐山様が用意して下さった松・竹・梅・岩等を自分で選び作品？に仕上げていきます。枝振りの良いものを選んだつもりでも鉢に入ると落ち着かなかつたり、岩の大小で雰囲気が変わったりと悪戦苦闘しました。左の写真では小さくて分かりにくいかもしれませんが、それぞれに工夫があります。寄せ植えの回数を重ねてきましたので人様の鉢を見る余裕も出てきました。

作業後は、いつものように昼食をしながら懇親を深めました。お正月にはタイミンク良く梅の花が満開となり「春」を楽しみました。



(佐藤 順子)



### ◇ゴルフクラブ

―楽しく健康維持・体づくり―

ゴルフクラブでは、次のように年4回の定例のコンペと年末の懇談会を行いました。

- ① 4月13日 栃木・皆川c.c
- ② 6月12日 栃木・星の宮c.c
- ③ 10月19日 栃木・アゼリアヒルズc.c
- ④ 12月4日 群馬・板倉ゴルフ
- ⑤ 12月4日 懇親会やるき茶屋

30年度は、毎回20名前後の参加者があり、延べ人数で100人程度になりました。参加者は80歳代が数名、熟練といわれるメンバーが大活躍です。70歳代は中堅、60歳代は若手です。ゴルフができる人は、コンペに向けて鍛えており、皆、体が元気です。

コンペでは、河川や丘陵に敷詰められた芝の上で、四季折々の季節感を味わうことのできる素晴らしい環境の中で、持ち前の腕を振るって参加し、楽しい一日を過ごしました。プレー中は、一打に精魂を込め、ニアピンや優勝を目指してプレーしました。また、ゴルフのマナーを学習し合い、互いにスイングなどをチェックしながらスコアの向上に励みました。

年末の懇親会では、お互いの近況報告などで親交を深め、翌年の検討を誓い合いました。

(中川弘詞)

### ◇写真クラブ

平成30年度は、東京の小石川植物園(6月)、石神井公園(12月)、そして、

3月に埼玉の北本自然観察公園で撮影会を行いました。北本自然観察公園では、いろいろな植物の芽吹きの様子・満開のエドヒガンザクラや野鳥が中心でしたが、期待していた城柄谷堤のソメイヨシノのつぼみは固くちよつと早すぎたようです。

野鳥は四十雀やツグミは確認できましたが、撮影となると少々難しいようです。野草も沢山咲いており、春の到来を感じさせられた一日でした。

ところで、昔はフィルムカメラで一枚一枚を大切に撮っていましたが、今はカメラがデジタル化して枚数を気にしないで撮れるので何回もシャッターを押してしまいます。一度の撮影会で何十枚も撮ってしまい家に戻ってから整理に困ったこともありました。「研究会」で話題になる「主題は何なのか」「構図がどうか」などについてよく考えて撮ることが大切だと反省してしています。

毎回、この写真クラブの撮影会は、適度な運動も兼ね、自然の素晴らしい環境の中での活動で、健康にもたいへん良い撮影会となっていると実感しています。昼食会も飲みながら、食べながらで話は尽きません。

(宇多川正博)

### ◇釣りクラブ

「釣りは鮎に始まって鮎に終わる?」

釣りクラブでは、年に2回の釣行と旨い魚を食べる会の3つの事業を行っていました。

昨年度の鱈の船釣りは、参加者不足と天候不順のために中止とさせていただきました。後日、プライベートで釣行し、ジャンボサイズの鱈を30数匹釣りました。当日の船宿のホームページに私のコメントが掲載されていました。江戸川放水路でのボートによるハゼ釣りも、参加者が少なく中止させていただけました。旨い魚を食べる会は、蔵の寿司店で旬の魚をいただき、今後の活動についての協議よりも、釣り以外の話題で盛り上がりました。

釣りクラブの創設会員の三浦幹雄先生、幹事の島谷文仁先生のご逝去、他の会員の皆様の高齢化や体調不良等で釣行の参加者が減少しています。クラブとしての活動も存続が難しい状況です。

本年度は釣りは、前菜程度で「旨い魚を食べる会」をメインに活動することになりました。「釣りは鮎に始まって鮎に終わる」と言われますが、「釣りは酒の肴を釣ることに始まり、酒を飲んで終わる」が本会の目指す釣りになりそうです。

(江川剛)

### ◇絵画クラブ

絵画愛 夢が膨らむ 富士山へ (神山作)

昨年度も活発に活動することができました。絵画の制作、作品の鑑賞と研究会と充実したクラブ活動でした。

ハイライトは、「富士山」への写生旅行です。8月末に実施しました。10名ほどの参加でしたが、新宿駅からバスで出発し、一路富士山へ、参加者全員でワクワクでした。山中湖畔で「富士山」を描くことにしたのですが、残念ながら雲に隠れて肝心の「富士山」が雄姿を見せてくれませんでした。仕方なく山中湖の風景を描きました。夕方になってやっと「富士山」が雄姿を見せてくれましたので、あわてて描いたものです。夜は描いた作品を並べての研究会です。描いている時と違って、ケンケンガクガク、多くの意見、感想が飛びかいます。最後は笑顔で大騒ぎ、楽しい一時を過ごしました。朝方「富士山」がまた姿を現してくれました。二日目は、「忍野八海」近くの「庭園」で絵を描きました。素晴らしい写生旅行でした。

今年度も「西福寺」での写生会をすでに実施し、更に、「飛鳥山」での写生会を予定しております。絵画クラブでは、会員の皆様をお待ちしております。楽しい、楽しい絵画クラブに参加してみませんか!

(渡邊秀人)



# ◇英会話クラブ

## 遊びを通して学ぶ英会話

創部3年目のクラブで、ほとんどがおしやべり好きな初心者が集まりです。毎月1回、市内公民館等で活動しています。

前半は初級英会話テキストを使い、リスニングやリーディングの学習を行います。後半はフリートークキングや英語ですごるくをしたり、などなぞを出しあったり、イギリスの小学生が使う算数ドリルを解くなど、遊びを通して楽しく活動しています。

また、毎年実地研修を行っています。今年は3月に、小石川後楽園に行きました。旅行中の外国人に片言の英語で話しかけるのは、とても勇気がいりますが、私たちの未熟な英語での問いかけに、親切に応じてくださる方ばかりでした。今年2回目となる現地研修は、英会話を学ぶ意欲と少々の自信をつけてくれました。

東京五輪では、片言英会話でも心を通じ合い楽しい交流ができることを期待しています。



【小石川後楽園にて】

(秋山 恵子)

## 豊かなスポーツライフの実現に向けて

川口市立並木小学校

前校長 池内 淳一

### 1 はじめに

本校は、平成29・30年度川口市教育委員会委嘱「体力向上」に関する研究で「運動の楽しさや喜びを味わい続ける児童の育成」思考力、判断力、表現力を高める体育授業を通して「研究主題として、研究を進めてきました。令和元年度全国学校体育研究大会の分科会会場として取り組みます。

### 2 研究主題設定の理由

現行の学習指導要領では、「習得した知識や技能を活用して課題を解決すること」「考えを分かりやすく相手に伝えること」「運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること」「体力水準が高かった頃と比べて依然として低い状況が見られること」が課題として挙げられています。

そこで、豊かなスポーツライフの実現に向けて、運動に関する課題を発見し、主体的に課題の解決に取り組むと共に、学習活動を振り返り、課題を修正したり、新たに設定したりして、次の課題解決へとつなげる学習過程が、体育科においても必要だと考えました。

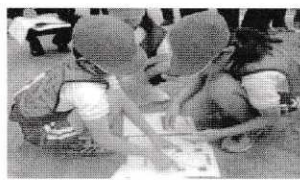
### 3 研究仮説

「学ぶ必要感を感じさせ、課題の解

決に向けて試行錯誤をさせることができれば、児童の思考力、判断力、表現力は高まり、運動の楽しさや喜びを味わい続けることができるだろう」と設定しました。

### 4 研究の概要

○学ぶ必要感を感じる学習過程の工夫  
児童が、主体的に学習するためには、学ぶことに必要感を感じることが重要であると考えます。



習得した知識や技能を活用しながらの課題解決

単元序盤では、その単元の目的の姿（ゴールイメージ）を知り、学習に見通しをもたせます。そこで重要なのが、「運動との出会い」です。児童が、その運動をしてみても「楽しい」「もっとやりたい」「できるようにになりたい」などの思いや必要感を感じられるようになります。単元前半から中盤にかけては、運動に出合ったときの思いや必要感を感じながら、知識及び技能を身に付けられるようになります。単元中盤から後半にかけては、「もっとできるようなりたい」「自分やチームの課題を解決したい」というような思いを活かし、これまでに習得した知識及び技能を活用して課題を見付けます。さらに、課題に応じた運動の行い方や練習の仕方などを選び、試行錯誤を重ねながら、課題を解決できるようにします。

単元序盤では、その単元の目的の姿（ゴールイメージ）を知り、学習に見通しをもたせます。そこで重要なのが、「運動との出会い」です。児童が、その運動をしてみても「楽しい」「もっとやりたい」「できるようにになりたい」などの思いや必要感を感じられるようになります。単元前半から中盤にかけては、運動に出合ったときの思いや必要感を感じながら、知識及び技能を身に付けられるようになります。単元中盤から後半にかけては、「もっとできるようなりたい」「自分やチームの課題を解決したい」というような思いを活かし、これまでに習得した知識及び技能を活用して課題を見付けます。さらに、課題に応じた運動の行い方や練習の仕方などを選び、試行錯誤を重ねながら、課題を解決できるようにします。

○試行錯誤させる機会や場面の設定  
アンケート調査から、課題の解決に向けて、友達とかかわり合いながら試行錯誤を重ね、よりよく解決できたときに、体育授業が楽しいと感じる児童が多いことが分かりました。そこで、習得した知識や技能を活用しながら、課題の解決に向け「実行」振り返り「実行」となる学習の流れを汲みました。

### 5 おわりに

体育が好きな児童の割合が増えてきています。また、「思考力、判断力、表現力」「試行錯誤」についても有意的な伸びが、見られるようになってきました。

今後は、さらに児童の思考力を促し、必要感を感じさせて、学習に取り組めるようにするための体育授業について、研究を深めてまいります。

### 編集後記

新元号「令和」のスタートの年、新会員を迎え、心新たに柏樹会も船出をしました。会報「柏樹19号」を発行にあたり、執筆くださった会員の皆様、ありがとうございました。

さて、各学校において、「働き方改革」に取組んでいます。川口市でも部活動の在り方を見直し、新たな取組を進めています。この取組により、学力の向上を図り、一層充実した教育活動になることを期待しております。

(原 富美夫)